令和２年度

学校評価報告書

付帯資料：①令和２年度　県学力定着度確認調査による
県学力診断テスト経年変化表
②英語トライアル団体スコアレポート
③令和２年度　保健管理概要
【学校保健委員会より】

鉾田市立旭北小学校

令和２年度　学校評価報告書

鉾田市立旭北小学校長　平沼　一彦

１　学校教育目標

□　豊かに学び未来を拓く児童の育成

２　組織目標

(1)　豊かに学び，未来を拓く児童の育成

(2)　チーム旭北を生かした組織的な教育活動の推進

３　学校評価（教職員，児童，保護者）

(1)　実施期日等

対　象	期　　日	回答者数(人)	回収率
教職員	１２月１４日（月）～２２日（火）	１３	100 %
児　童	１２月１４日（月）～１８日（金）	７３	98.6 %
保護者	１２月１６日（水）～２２日（火）	４５	76.3 %

(2)　評価結果　　資料１・２・３　学校評価結果参照

(3)　結果の公表

①　地域への公表　　２月１９日(金)学校評議員会において，学校評価結果を配付

②　地域・保護者への公表　学校ＨＰにて公開（R2.1.28）

(4)　校内学校評価検討会の実施

・実施期日　令和３年１月２５日（月）

(5)　全体考察

・教職員，児童，保護者共に評価項目は 30 項目で３者に関連した内容で設定。

・７月と１２月に実施。

(6)　主な評価結果における成果と課題

※それぞれ４段階で回答。「Ａそう思う」４点，「Ｂどちらかといえばそう思う」３点「Ｃどちらかというとそう思わない」２点，「Ｄそう思わない」１点でポイント化。

①　教職員について（資料１「職員」欄参照）

【成果】

１：組織目標（自己有用感，豊かな学び，チーム旭北）の実現を図った。

７月　3.3　→１２月　3.5　＋0.2（７月　Ａ33%　→　12月　Ａ54%）

取組：職員会議，全校朝会，様々な行事のあいさつの中など，機会がある毎に校長が意識付けとなる話をした。一人一人に活躍の場を与えることも各担任は強く意識して取り組んでいた。

成果：**児童「自分の良さを先生は認めたり励ましてくれたりしてくれる」**

Ａ＋Ｂ評価　96%【Ａ78%】（保護者アンケートも　Ａ＋Ｂ 92％）

３：児童の積極的な挑戦を推進指導している。

７月　3.2　→　12月　3.8　＋0.6（7月　Ａ33%　→　12月　Ａ82%）

取組：昨年の「自己有用感をもたせる」に加えて，今年新たに加わった項目である。組織目標同様，校長自らが集会や，会議・研修時に繰り返し話していた。また，２学期に運動会での鼓笛やダンス，持久走大会，なわとびタイム等の行事もこの結果に大きく反映していると考えられる。

成果：**児童「失敗を恐れず挑戦しようとしている」Ａ＋Ｂ評価　93%【Ａ69%】**
（同様の保護者アンケートでも，Ａ＋Ｂ　98％）

４：よくわかる授業を心がけている。

７月　3.5　→　12月　3.7　＋0.2（7月　Ａ50%　→　12月　Ａ73%）

取組：６月までの休校明けで,それまでの授業を取り戻そうとする１学期に比べ,先生方もよりわかりやすい授業を心がけられるようになってきたことが反映されている。デジタル教科書(指導者用)の活用にも，大変積極的で，毎時間モニターの活用が見られない教室はない。話し合い活動も，一人一人がホワイトボードを使って３密を避けながら行うことができている。

・職員「考えを伝え合う力を伸ばす授業を行っている」Ａ＋Ｂ　100％
・児童「自分の考えをわかりやすく伝えることができる」同上　92％
・保護者「子どもは自分の考えをわかりやすく伝えている」同上　89％

成果：**児童「授業がよくわかる」Ａ＋Ｂ評価　96%【Ａ78%】**
（同様の保護者アンケートでも，Ａ＋Ｂ　97％）

９：家庭学習の習慣化に努めている。

７月　3.6　→　12月　3.8　＋0.2（7月　Ａ60%　→　12月　Ａ82%）

取組：コロナ禍による混乱が長く常態化する中,日常の中では静かな混沌となり,学習に力が入れられるようになってきた証である。宿題もプリントやドリル類だけでなく,「家庭学習帳」のように自分で課題を考え，自らの興味関心で調べ学習や教科の予習復習をすることを奨励している。

成果：**・児童「家庭学習にしっかり取り組んでいる」Ａ＋Ｂ　93%【Ａ 81 ％】**
・保護者「子どもは家庭学習にしっかり取り組んでいる」同上　87%

16：児童や保護者の相談に親身に対応している。

７月　3.3　→　12月　3.4　＋0.1

取組：児童へは年間を通して生活アンケートを実施し，その後個別面談を取り入れ，すべての児童が担任と１対１で対話する機会を設けている。昼休みや清掃時にチャンス相談を行っている担任も少なくない。また，教務や養護教諭等の担任外が相談に応じるケースも多く,「全職員が担任」の意識がある。特に心配な児童については，保護者とのケース会議や定期的な面談も行っている。

成果：**児童「先生は何でも相談しやすい」Ａ＋Ｂ　91%　【Ａ80%】**

（同様の保護者アンケートでも　Ａ＋Ｂ　88％）
・職員「児童が安心出来る居場所作りに努めている」Ａ＋Ｂ　100％
・児童「学校は安心して生活出来る」Ａ＋Ｂ　98％
・保護者「学校は子供たちが安心して生活出来る場である」同上　95％

17：児童とふれあう時間を多くするように努めている。

7月　3.1　→　12月　3.1　±０　（Ａ 17％　→　Ａ 25％）

取組：担任の１日の時間的余裕は限りなく少ない。ノートチェックも給食を食べながら行うほどである。その中でも少しでもふれあいの時間を取ろうとしている様子がうかがえる。業間のマラソンタイムではすべての先生が児童とともに走っている。週に１日みんなで遊ぶ日を設けているクラスもある。

成果：**児童「先生はよく遊んでくれたり話を聞いてくれたりする」Ａ　76%**，
保護者「先生は上記について努めている」Ａ　64％）

18：いじめの根絶といのちの大切さについて指導している。

7月　3.4　→　12月　3.6　＋0.2

取組：年３回の人権集会では，例年縦割り班でのいじめ撲滅スローガンの作成や，いじめ防止の標語づくりなどを行っていたが，今年は縦割りによる活動をソーシャルディスタンスを確保しながら実施。本校の生活指導の柱にたて割班活動があり，それが自由に行えないのは，職員の中にも不安があった。児童はそんな中でも清掃活動や，昼休みの遊びの中で積極的に異学年交流を行っていた。高学年の年少者への優しさに救われる思いがする。いや，これまでの先生方の指導の成果のおかげかもしれない。

成果：**児童「いじめは絶対にやってはいけない」Ａ　96%**，
児童「みんなの役に立ちたいと思っている」Ａ＋Ｂ　95%
児童「掃除を協力してやっている」Ａ＋Ｂ　100%
児童「異学年とみんなで楽しく活動できた」Ａ＋Ｂ　97%
保護者「学校はいのちの大切さについて指導している」Ａ＋Ｂ　94％

24：児童の安全確保に努めている。

7月　3.7　→　12月　3.7　±０

取組：常に高い水準である。年５回の避難訓練（今年度は，火災・地震・不審者・原子力災害・緊急地震速報），毎月全職員による安全点検，毎日の下校指導，学期毎の通学路現地点検，それにコロナ禍による感染症対策指導も加わる。常に児童の安全安心を第一に考える素地がある。また，避難訓練でも，年々児童が「自分のいのちは自分で守る」意識の高揚を目指し，よりリアルな場面設定で「失敗から学ぶ」を基本に改善している。
職員「交通安全を日頃から指導している」Ａ＋Ｂ　100％
職員「病気やけがについて指導管理を行っている」Ａ＋Ｂ　100％

成果：**児童「自分の体は自分で守る」Ａ＋Ｂ　100%【Ａ95%】**
保護者「学校は児童の安全確保に努めている」Ａ＋Ｂ　100%
特に，児童のＡ９５％は頼もしい限りである。

【課題と対策】

10：読書の時間確保と読書指導は十分にできた。

7月　3.4　→　12月　3.3　（Ａ44%　→　Ａ36%）

課題：「読書は心のビタミン」と学校図書館の入り口に掲げられている。読書は学習のみならず，心の成長に欠かすことができない。朝読書も週に４日設定され，月に１度はボランティアや担任外の先生による読み聞かせも行っている。児童も進んで読書に励んでいる（児童「読書にしっかり取り組んでいる」Ａ＋Ｂ 92 %）。しかし，職員には指導した意識が低い。これは，毎回の調査でも出てくる結果である。

対策：国語科より，毎月の読書指導を年計に組み込み，授業やＳＨＲの中で児童に働きかける。また，これまで同様「家読」として保護 者にも子どもとともに読書をすることを呼びかけている。

《参考》みんなに進めたい一冊の本推進事業　受賞者

年度	教育長賞	県知事賞
平成 30 年度	43 名(98 %)	11 名（25 %）
令和元年度	42 名（91 %）	8 名（18 %）
令和２年度(推定)	40 名（98 %）	9 名（21 %）

12：道徳の授業研究を積極的に推進した。

7月　3.6　→　12月　3.4　－0.2（Ａ60%　→　Ａ45%）

課題：道徳の市の研究指定は今年が授業公開の予定であったが，１年先延ばしとなった。今年度前半は研究主任を中心に熱の入った道徳科の基本研修や授業公開，授業研究が行われていたが，現在は授業中心としたものになっている。

対策：特設の研修は積極的に行われていないものの，前年からの研修は十分成果を挙げていると見られる。授業を参観しても「考え議論する」「考えを深める」授業は各クラスで展開されている。授業時数もしっかり 35 回に迫っている（１月末)。

18：生活や学習の躾の指導を徹底出来た。

7月　3.3　→　12月　3.1　－0.2　（Ａ40%　→　Ａ18%）

課題：１学期，学校再開に伴って授業を含む学校生活面での立て直しを図ってきた。その意識が数字に表れている。本校は県学力診断や全国学力調査でも学習内容の定着が良好である根本には授業への集中と真面目な取組がある。そしてその基本となるのが学習・生活の躾である。Ａ＋Ｂではどちらも 100 %ではあるが，Ａ評価の落ち込みが気になる。

・児童「生活や学習の決まりを守っている」Ａ＋Ｂ 96 %【Ａ 89 %】

・保護者「子どもたちは上記を守っている」Ａ＋Ｂ 93 %【Ａ 69 %】

対策：再度，始業の時間や挨拶，道具類の点検，忘れ物の確認等，基礎的基本的要素に注意を払う必要がある。学校評価結果を踏まえての研修でも「生活

・学習の躾」については再確認の意識が高まった。学年間での温度差をなくし，学ぶ姿勢，きちんと生活していく姿勢を見つめ直していく。

② 児童について（資料１「児童」欄参照）

【成果】

15：元気にあいさつができる。

7月　3.8　→　12月　3.7　－0.1　（Ａ＋Ｂ　99%　→　Ａ＋Ｂ　96%）

取組：学校再開時，児童の様子で最も心配されたのが「あいさつ」であった。このことは職員間でも完全に共有され，全員がその改善に力を入れてきた。生徒指導班でも登校班での班長会議を定期的に行い，児童に話し合いを重ねさせ，児童の提案を生かした取組を継続してきた。その結果，

・職員「児童は元気にあいさつが出来る」7月　Ａ８％→　12月　Ａ23%
保護者「子どもたちは同上」7月　Ａ53%→　12月　Ａ69%

と，大きく向上することができた。

成果：職員と保護者の数値が大きく伸びたのに反して，児童の数値がやや下がったのは，児童自身が現状の挨拶にはまだ満足していないという意識の高さが感じられる。特に，何度も班長会議を重ねてきた班長集団でもある高学年は「相手よりも先に」「相手の目を見て笑顔で」等といったテーマを掲げて取り組んでいる。この意識こそが大きな成果と言える。

22：遊びや運動で外で進んで体を動かしている。

７月　3.7　→　12月　3.8　＋0.1　（Ａ＋Ｂ　99%）

取組：学校再開時，学習の遅れも気がかりだが，「子どもらしさと学校の楽しさの回復」を第一とした。長い休校から学校を中心とした日常を取り戻すには，子供同士が生き生きと遊び，みんなで体を動かすことが大切と考えた。大きな行事や訪問等があったりしても極力休み時間の確保に努めた。体育主任も中休みと昼休みは 100 %外へ出て，外遊びの輪に加わって汗をかきながら体を動かした。業間の体力作りでは，全教師が児童とともに息を切らして活動した。

成果：**昨年12月95%より大きくアップ（Ａ評価も79→88）。保護者もＡ＋Ｂ評価　95%（昨年12月　93%）**

今年は外部クラブではあるが本校の特色にも上がる「かっとび縄跳び」がＮＨＫの都合で取りやめとなり，児童の運動への意識変化が気になっていた。しかし，持久走や縄跳び練習，中休みや昼休みの外遊びは例年以上に活発である。異学年間での遊びは体力以上に様々な学びを与えてくれる。

※【課題】については①「職員」を参照。

③ 保護者について（資料１「保護者」欄参照）

【成果】

18：学校は学級や児童の様子を発信している。

７月　3.6　→　12月　3.7　Ａ＋Ｂ評価　97%

取組：学級通信，学校だよりに加え，昨年度より「ＨＰ毎日更新」に取り組んでいる。校長，教頭，教務で分担し，日々更新している。行事やＰＴＡ会合の際は校長自らが宣伝している。楽しみにしている保護者も多く，アクセス数が伸びている。

成果：**H30　61%→　R1　69%→ R2 73%　　2年連続で向上。**

24：学校は子どもたちの安全確保に努めている。

７月　3.6　→　12月　3.8　Ａ＋Ｂ評価　100%

取組：コロナ関連の取組では，必要十分の対応をとっている。保護者にも，学校での取組をきちんと文書で知らせるようにした。また，感染予防を図りながらも「できることをやる」「できるよう工夫する」をモットーに，休校中の学習，運動会，保護者面談，授業参観に取り組んできた。

成果：コロナ関連の対応についての理解が定着し，学校側のコロナ対策への安心感・信頼度の高まりが感じられる。保護者も協力的である。

昨年比　Ａ評価64%　→　R2　Ａ評価82%　＋18ポイント。

30：教職員は行事等で，保護者や地域の人達と積極的に交流している。

７月　3.4　→　12月　3.5　＋0.1

課題：学校行事等への保護者の参加率は常に９割を超えており，学校への関心の高さがわかる。行事等も保護者の協力が不可欠なものも多く，PTA 役員や代表らとの協議会は年５回行われ，常に保護者との連携を図っている。

また，樹木の消毒，学校畑の耕耘，危険遊具の除去等では，「おやじの会」に協力を仰ぎ，職員も共に作業するなど，積極的な関わりを行い，相互の信頼関係を構築した。

成果：**昨年比　Ａ評価　56%　→　Ａ評価　62%　と大きく伸びている。**

【課題】

アンケート結果の数値としてのマイナス要素はない。しかし，今回の回答率が 76.3%と，例年９割近くあることと比較すると，この数値をどう見るかが問題。今後のアンケートの方法や保護者の意見を聞く機会の改善の必要がある。

次年度より，統合小学校設立について，話題にされることが多くなってくる。保護者の子供への思いを十分にすくい上げて不安の解消，さらなる信頼関係の構築を図っていきたい。

4　成果と課題

今年度は，コロナ禍という中での教育活動であり，これまでのような取組に大きく制限が加わった。本校の大きな特色であり，最大の教育効果が期待できる「縦割り班活動」に大きく制限がかけられたのは不安であった。その中で，「工夫しながらできることを

やる」ことや，感染の心配が比較的低い「外での運動や遊び」により，異学年間の関係が良好であったことはとてもよかった。

少人数のため，特に分散授業や時間差授業を行うことがなかったのもゆとりをもって教科指導に取り組むことができ，休み時間や行事にしっかり取り組むことができた要因である。いずれにせよ，普段から職員が児童や保護者との信頼関係を第一に校務を行っているところが大きいのではと感じる。

コロナ禍においても高い秩序を保ち，児童自身の(特に高学年の)自主・自律の力には助けられた。また，そうなるように丁寧に指導している先生方の力と，保護者の高い教育力で，緊急時にも平常に学校が成り立っているのも事実である。今後も，「自己有用感の育成」を合い言葉に，児童自身の「未来を拓く力」を伸ばしていきたい。

学校評価結果に対する所見

〇学校評価の結果から見える課題と，その改善策，意見等を記入してください（最大４項目。２～４項目記入ください。今後の教育課程編成等の資料にしていきます。）

番号		【課題】
【改善策・意見】		

番号		【課題】
【改善策・意見】		

番号		【課題】
【改善策・意見】		

番号		【課題】
【改善策・意見】		

提出期限　１月１９日（火）